

しなののうた

雷鳴の閃光はしる窓にいて悪魔の駆ける天を眺めり

l.MI

杉田小百合

しなののうた

虹色の網光らせて女郎蜘蛛獲物を待ちて微動だにせず

杉田小百合



しなののうた

楚楚として夜に咲く花月見草
倦みて日を過ぐわれを誘い来

l.MI

杉田小百合

しなののうた

咲き満ちて満ちて落ちゆく沙羅の花白き音ひき釈迦を思わす

杉田小百合



しなののうた

うじうじと扱いかねる身を厭う積雲われを乗せていき欲し

l.MI

杉田小百合